

## 春の天気 ～春を見つけよう～

3月になりました。ほかほか暖かい日とまだまだ寒い日を繰り返して、だんだんと暖くなる季節。そろそろ土筆もひょっこり顔を出して、春を感じることができる季節がやってきました。今回は、そんな春の天気についてご紹介したいと思います。（天気図は、気象庁提供のものをトリミング加工しています。）

### 春を告げる風、「春一番」

みなさんは、「春一番」とよばれる風をご存知でしょうか？立春（2/4頃）から春分（3/20頃）までの間に、初めて吹く暖かい南寄りの強い風が「春一番」です。暖かい春の空気を運んでくれますが、穏やかな優しい風ではありません。ときには災害を招くこともあるので、注意が必要です。風は、気圧が高いところから低いところに向かって吹きます。春は日本海上にある発達した低気圧に向かって南風が吹き込み、強い風が吹きやすい季節となっています。

また、春一番が吹いた後、ずっと暖かい南風が続く…というわけではありません。暖かい南風をよび込んだ日本海の低気圧が通り過ぎた後は、再び冬型の気圧配置となり、寒さが戻ってきます。

昨年2016年は、2月14日に中国地方や東海地方など各地で春一番が観測されていますが、大阪で前回春一番が観測されたのは、2013年3月18日です。春一番は「立春から春分までの間」と期間が決まっているので、毎年発生するとは限りません。

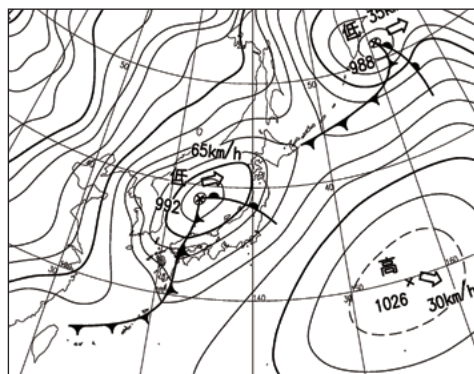


図1. 2016年2月14日3時の天気図  
（日本海にある低気圧に向かって暖かい南風が吹き込む）

### 春の天気は変わりやすい！？

春はほかほか、ぼや～っと晴れているイメージがある…かもしれませんが、実は、春の天気は変わりやすく、晴れたり雨が降ったり短い周期で天気が変わります。

春には、移動性の高気圧と低気圧が西から東へ3～4日ごとに日本上空を交互に通過することが多くなります。基本的には、高気圧が来ると晴れ、低気圧が来ると雨が降ることが多くなります。それは、低気圧のところでは上昇気流により雲ができてやすく、高気圧のところでは下降気流により雲がなくなるためなのですが、そのため、晴天と雨天が短い周期で繰り返されます。ただ、高気圧の圏内すべ

てが晴れている、というわけではありません。高気圧の中心より西側や南側では、次の低気圧の雲がかかってきたりするので、雲が広がりやすくなっています。そのため、高気圧がどのようなコースをとるかによって、天気の変化は異なります。

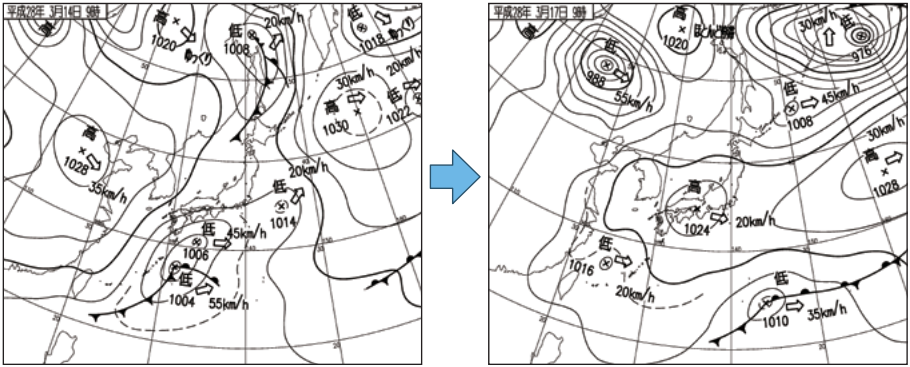


図2. 春の天気図 2016年3月14日9時

2016年3月17日9時

桜の開花日発表、決め手は「<sup>ひょうほんぼく</sup>標本木」！

春と言えば…お花見！お花見と言えば…桜！毎年「桜が開花しました」とか「満開になりました」とか発表がありますが、みなさんの近くにある桜の咲き具合と違っていることはありませんか？一体どうやって開花日や満開日を決めているのでしょうか？

実は、気象庁では各地で基準とする「標本木」を決めていて、毎年決まった桜の木を観測しています。そして、標本木の桜がどれだけ咲いたかによって、開花日や満開日を決めています。写真は、奈良地方気象台にある桜の標本木です。写真はまだ1月の状態ですが、3月後半には、膨らんだつぼみが見られるはず。ちなみに、大阪では大阪城公園の中に桜の標本木があるそうですが、自分だけの標本木を決めて観察したり、気温などとの関係を調べたりしてみても、ちょっとした季節の変化に出会えて楽しいかもしれません♪（奈良地方気象台は、2017年3月上旬頃に移転します。）



桜の標本木(奈良)

桜の開花日と満開日	
開花日	標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日
満開日	標本木で全体の約80%以上の花が咲いた状態となった最初の日

西岡 里織(科学館学芸員)